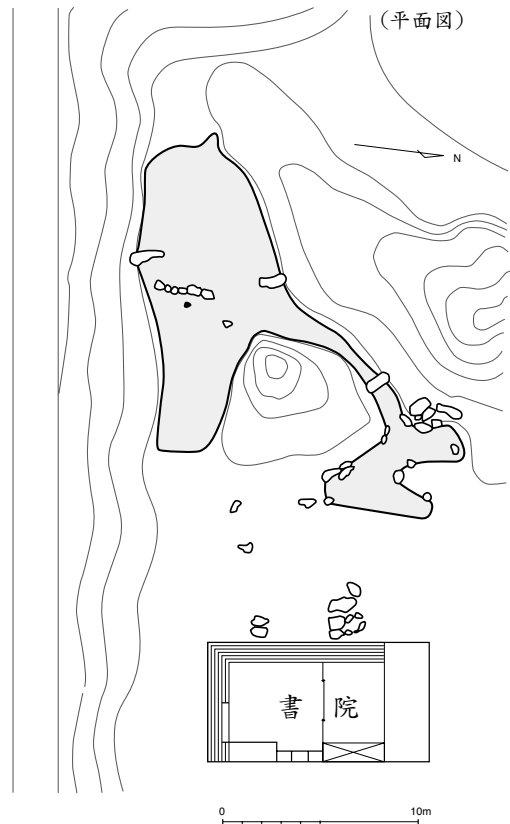


曲水泉

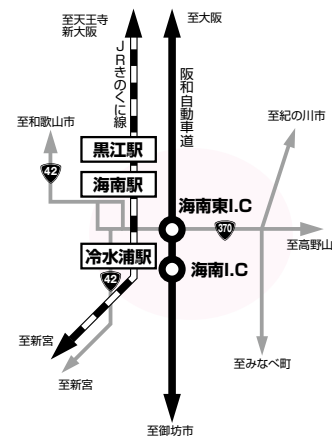
ここ旧鈴木邸庭園（県指定史跡）は、「曲水泉」といわれるもので、今も残る貴重な庭園のひとつに数えられます。

「曲水泉」というのは平安時代のころ、曲がりくねった水路に沿って並べた庭石に人々が腰かけ、上流から流された杯が自分の所に来るまでに詩歌を作り、杯を取り上げて酒を飲み、次へと流す遊びに使われた庭です。造園の年代時期ははっきりしませんが、室町時代ではないかと考えられています。

鈴木邸庭園
（平面図）



藤白鈴木屋敷へは…

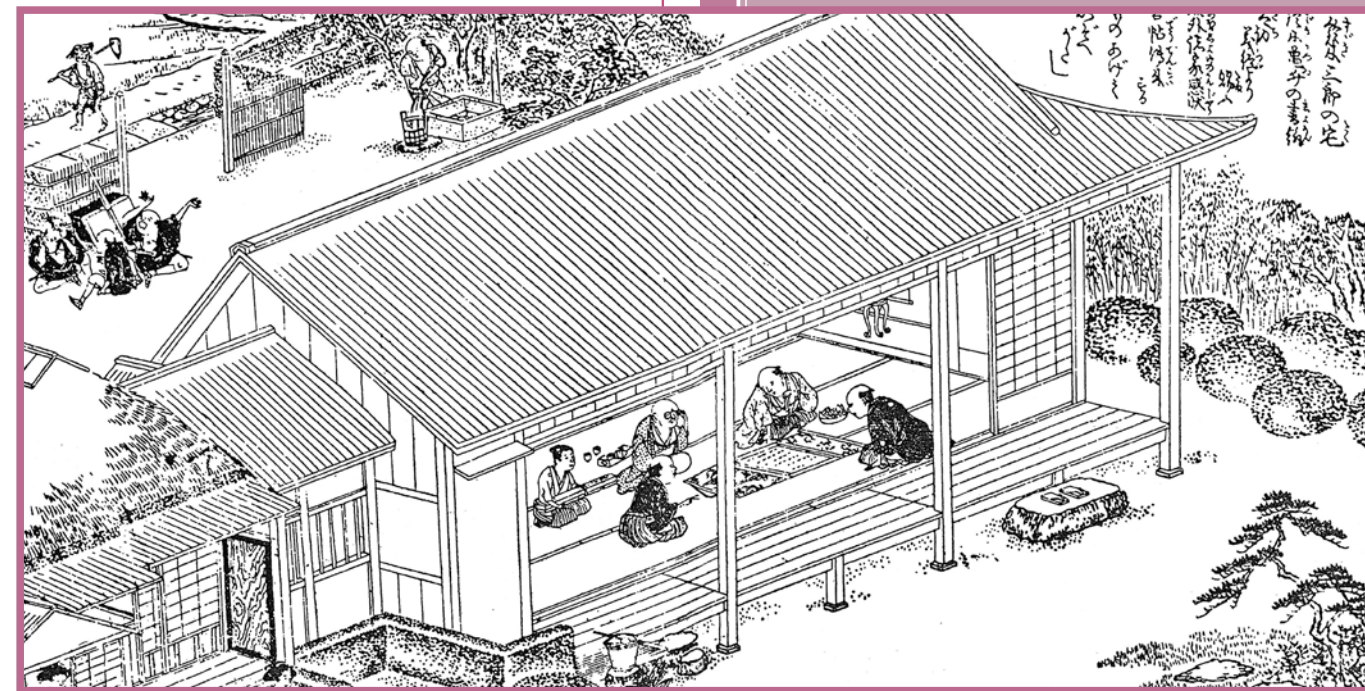


●JR利用で海南駅下車 徒歩20分

【海南駅まで】
天王寺駅から約50分(特急)
新大阪駅から約1時間10分(特急)
関西国際空港から約40分(普通)

●車(阪和自動車道)利用で 海南I.Cすぐ

【海南I.Cまで】
大阪(松原)から約50分
関西国際空港から約30分



(紀伊名所図会より)

お問い合わせ

海南市物産観光センター
TEL (073) 484-2326

海南市観光協会

〒642-8501 和歌山県海南市日方1525番地6
海南市役所産業振興課内
TEL (073) 483-8461 FAX (073) 483-8466
<http://www.kainankanko.com/>

藤白と

鈴木屋敷

藤白の鈴木氏

全国で最も多い姓氏に数えられている鈴木氏のルーツをたずねると、たいてい紀州熊野にたどりつき、なかでも、藤白の鈴木氏の流れをくむことが多いと言われています。

鈴木氏は、熊野旧三家の一つで、勝浦湾を根拠地とした豪族でした。

その始祖は、神武天皇東征軍が熊野へ立ち寄られたとき、稲を献じて飼料に供したので、天皇から穂積姓をたまわったという話が伝わっています。穂積すなわち稲積(いなつき)のことを、紀州ではススキと言うところから鈴木氏を名のようになったと言われています。

熊野の鈴木氏が藤白へ移り住んだのは、平安末期ごろ、上皇や法皇の熊野参詣が盛んとなった頃と推定されます。

熊野御幸の上皇、法皇や宮廷人を藤白で出迎え、熊野三山(本宮・新宮・那智)への案内役をつとめてきたのでしょう。藤白の地に熊野一の鳥居がもうけられていたのも、こうした事情によるものと考えられます。

また、全国津々浦々へ熊野信仰の普及につとめる中心的役割を果たしたのも鈴木氏でした。

熊野信仰の普及活動のため各地に赴いた鈴木氏一族が、熊野参詣がかったような盛況を失った後も、赴任先で定住したことが、こんにち藤白出身の鈴木氏が全国いたるところで居住されている所以でもあります。

藤白の鈴木氏で有名なのは、鈴木三郎重家と亀井六郎重清の兄弟です。重家、重清らが幼少の頃、牛若丸(源義経)が熊野往還には必ず藤白の鈴木邸に滞在し、重家、重清らと山野に遊んだと伝わっており、義経弓立の松の古木もありました。

義経の屋島の戦いを勝利に導いたのは、熊野水軍の力にあずかるころが大きく、この水軍を源氏方へ引き入れたのは鈴木兄弟であったと言われ、牛若丸との話は単なる伝説にとどまるものではありません。

この兄弟は、義経の家来として最後まで戦い、文治五年(1189)四月末、ついに衣川の戦いで、最期を遂げたと伝えられています。

浄土寺境内に立つ石塔は、義経と鈴木兄弟の墓だと言われます。

文治五年己酉四月廿八日

僧阿弥陀仏 鈴木三郎重家

義阿弥陀仏 伊予守源義経

珠阿弥陀仏 亀井六郎重清

藤白王子社は、熊野三山の遙拝所として、家津御子神(本宮)・熊野速玉神(新宮)・熊野夫須美神(那智)の三神をまつるほか、鈴木氏の始祖という饒速日命を祭神としています。熊野九十九王子社のうちでも特に格式が高く、御幸の途中、歌会を催したり、相撲を観覧されたことが記録に残っています。

江戸初期からは、鈴木氏は王子社の神官を離れ、地土にとどまりましたが、百二十二代目鈴木三郎重吉が昭和十七年に逝去され、藤白住の鈴木家が絶えたのは惜しまれます。

海南市観光協会

